

平成29年度 国立吉備青少年自然の家教育事業
吉備ボランティアスキルアップ研修

1. 事業の目的（趣旨・ねらい）

教育事業の実地踏査や支援方法等の研修を通して、活動内容や安全面について理解し事業において適切な支援ができるようになる。また、吉備ボランティアとしての資質や能力の向上を図り、ボランティア活動に対する意欲を高める。

2. 事業の概要

（1）期日

平成29年6月10日（土）～11日（日） 1泊2日

（2）参加者

①募集対象・人数

吉備ボランティア（新規及び継続）・20人

②参加者

12人（新規8人、継続4人）

（3）講師

国立吉備青少年自然の家 企画指導専門職

（4）企画・運営のポイント

- ① 昨年度、吉備ボランティア養成研修後、すぐに実践を積むことのできる教育事業があればよいという反省があった。その反省を活かし、今年度は吉備ボランティア養成研修から3週間後、早い段階でボランティアスキルアップ研修を企画した。
- ② 今回は、ボランティアスキルアップ研修の中に、フィールドワークと実践を積むことのできる教育事業「ウーリークラブ～吉備の里山で子育て～」を組み入れた。

3. 活動の内容等

（1）日程

6月10日（土）		6月11日（日）	
13:00	開会式	6:15	起床・洗面
13:30	研修1 講義「モラルについて」	6:45	清掃
14:30	研修2 「ウーリークラブに関する フィールドワークなど」	7:15	朝のつどい
17:15	夕べのつどい	7:30	朝食
17:30	夕食	9:00	ウーリークラブ打合せ、
18:30	研修3 講義「ウーリークラブにお ける具体的な接し方や声か けについて」	9:30	ウーリークラブ受付
21:00	入浴	10:00	ウーリークラブでの支援
		12:00	昼食（レストラン弁当）
		16:00	閉会式、振り返り
		17:00	解散

(2) 活動状況



【研修1 講義「モラル」について】



【研修1 講義「モラル」について】



【研修2 フィールドワーク】



【研修2 フィールドワーク】



【夕食】



【研修3 講義「ウーリークラブにおける
具体的な接し方や声かけについて」】



【ウーリークラブ 開会式】



【ウーリークラブ ファミリーツリーの木】



【ウーリークラブ 飛び出せ自然探検隊】



【活動の振り返り】

4. 成果・課題

(1) 満足度

満足：100%

(2) 参加者の声

- ① 研修を受けたことにより、子どもたちにどう接したらよいのかをあらかじめ知ること、具体的なことをイメージして実践できたのが良かった。
- ② 研修は、具体的な事例を元にした子どもとの関わりを考えることができたので、イメージがわきやすかった。
- ③ 今までしっかりとモラルについて考えたことがなかったので、具体例などで考えることができ、とても勉強になった。
- ④ 子どもがかわいいと思う一心で、つい可愛がりたくなるが、子どもの成長を考えると、「見守る」「手を出しすぎない」ことが大切だということが分かった。
- ⑤ フィールドワークをすることで、自分1人では気づくことができなかったような注意点をたくさん知ることができ、それに対する対策を考えることができて良かった。
- ⑥ 担当させてもらった子がとても人見知りで、ふれあいを嫌がられてしまって困

ったが、昨日の研修で習った「目が合ったら微笑む」「静かに寄り添う」ということを実践すると、別れ際には手を握ってくれるまでになったので嬉しかった。私と似たタイプの人見知りさんだったので、自分の経験をふまえてお母さんの相談に乗ることができ、また、お母さんからの話を聞くことができたので良かった。

- ⑦ 研修で考えていたより、実践はもっと難しかった。今回のことを踏まえ、今後は改善をしていきたい。
- ⑧ 子どもたちのいろいろな表情を見ることができて、心の底から楽しかった。毎回参加しようと思う。
- ⑨ 今回は子どもと関わるボランティアが初めてなので戸惑ったこともあったが、最後に自分が担当した子どもの両親に、「いろいろとサポートしてくれてありがとう。また、ウーリークラブに参加したいです。」とお言葉をいただき、とても嬉しかった。今後も参加したい。また、自分もボランティアリーダーとして活動したい。

(3) 成果

- ① 吉備ボランティア養成研修から、1ヶ月も経たないうちにスキルアップ研修会を設けることで、参加者の意欲が高まった。
- ② 初めてのボランティア活動にふさわしい教育事業であったので、ボランティア初心者が参加しやすく、意欲に繋がる研修となった。
- ③ 研修したことを実際に活かせる場を設定することにより、理論と実践が結びつき、参加者の満足度が高かった。また、実践の中で、技術を身に付けることができた。

(4) 今後の課題

- ① ボランティア初心者が参加しやすい内容であったにも関わらず、参加者が多くはなかった。原因を解明し、参加者がより多くなるように、工夫をする必要がある。
- ② 今回の研修内容は、参加者の満足度が非常に高かった。来年度もより内容の充実したものを目指すために、所が必要としている内容に加えて、参加者が欲している内容をどの程度盛り込んでいくかを検討する必要がある。

担当：企画指導専門職 瀧田 正宏